

ベトナム語ブックリスト作成にあたって

平成 21 年 12 月 25 日

報告者：大東文化大学国際関係学部国際文化学科准教授

加藤 栄

I. リスト作成中に得られた情報

1) ベトナムにおける児童書の出版社

現在、ベトナムには 56 の国営出版社と、2005 年より設立が認められた若干の私営出版社がある。このうち児童書を専門に出版しているのはキムドン出版社(NXB Kim Đồng 所在地はハノイ)のみであり、児童文学、昔話や絵本、コミックから、数や文字の教本のような教育用図書、科学や歴史の見識を培う書籍に至るまで、子ども向け図書の全分野をカバーしている。

この他、国営では、若年層向けの本を扱い、児童文学部門もある若者出版社(NXB Trẻ 所在地はホーチミン市)、文学出版社(NXB Văn học)、教育出版社(NXB Giáo dục)、美術出版社(NXB Mỹ Thuật)、文化情報出版社(NXB Văn hóa Thông tin)、婦人出版社(NXB Phụ nữ)、ダナン出版社(NXB Đà Nẵng)、私営ではニューナム出版社(NXB Nhã Nam)、ドンアー出版社(NXB Đông A)、ロンミン出版社(NXB Long Minh)等も、昔話や教育用図書(文字・数の本)を中心にこの分野に参入してきている。ただし出版物の誤植が比較的少なく、信頼できるのは、キムドン、若者、教育、文学の各社のものだという。

2) 授賞状況

児童文学作品に与えられる主な国内賞に、ベトナム作家協会児童文学賞、キムドン出版社賞がある。まず作家協会賞であるが、同協会には児童文学部会が置かれており、児童向けの物語、小説、詩など、創作のジャンルのすぐれた作品に対して与えられる。頻度は基本的に毎年であるが、1976-1979 年のように数年に一度といった場合もある。もっともすぐれた作品に与えられるのは A 賞で、以下、B 賞、C 賞、佳作となっている。その他、最年少者賞、最年長者賞なども設けられている。キムドン出版社賞は 1957 年に創設された賞で、やはり一年から数年に一度、授賞される。

上記の他、作家協会や新聞社等がテーマ別のコンテストを実施し、応募作の中から選ばれた優秀作品に与えられる賞(たとえばリスト No.4、No.75、No.77 など)や、No.54 のように、海外の作家協会との共催で実施されたコンテストによる受賞作もある。

これらの賞の多くは、売り上げのよしあしにかかわらず、子どもの成長段階に適合した良質の作品であると選考委員会が判断したものに与えられている。

またベトナムには、児童文学の作者を対象とした賞だけでなく、大人向けの作品も含め、文学・芸術活動の発展に貢献した文化人・芸術家に与えられる賞もある。もっとも上位にあるのが「ホーチミン賞」で、「国家賞」はその下に位置する。児童文学の作者たちの中に

はこの賞の受賞者も何人か含まれており、今回作成したリストには、国内賞はとっていないものの、ロングセラーとなっている彼らの作品も列挙してある(たとえば No.88 のトー・ホアイや No.103 のグエン・ファイ・トゥオンらがそれにあたる)。

一方、国外賞の受賞者はベトナムでは二作品とまだ少ない(No.75、84)

II. リスト作成の作業過程

今回のブックリストを作成するにあたり、ハノイ師範大学(Hanoi National University of education) 附属「ベトナム児童文学研究センター(Center for children literature)」のラー・ティ・バック・リー(Lã Thị Bắc Lý)さんから全面的な協力をいただいた。同センターはベトナム児童文学の研究および学生への教育を目的に設立された機関である。ベトナムでは、成人向けの文学と比べると、児童文学に対する位置づけはまだ低く、研究者の数もけっして多いとは言えない。同センターが設立されたのは 2003 年と、創設からまだ歴史の浅い機関であり、同センターのホームページによれば専門研究員も 5 名と少ない。児童文学の研究者がいる機関としては、他にベトナム国立アカデミー所属の文学研究所(Viện Văn học)がある(作家協会内にも児童文学部会があるが、恒常的に児童文学を研究するための機関ではない)が、大学に付設された専門研究機関としては同センターが唯一のものである。

バック・リーさんはその主任であり、ベトナムにおけるこれからの児童文学研究を牽引する中心人物のひとりと言える。実際、リスト No.264 から No.274 を見ればわかるように、2000 年代以降の研究成果は、そのほとんどが彼女のものとなっている。ここで名前があがっているその他の研究者、ヴァン・ティン女史(Vân Thanh)やヴァン・ホン氏(Vân Hồng)、ヴー・ゴック・ヴィン氏(Vũ Ngọc Bình)らは、みな 1960 年代から 80 年代にかけて活躍した、バック・リーさんより上の世代の研究者である。この 3 名中、とくにヴァン・ティン女史は児童文学研究の草分け的存在で、2000 年代にも著書を出版しているが、No.274 の『ベトナム児童文学』は 1960 年代から 90 年代にかけて発表された児童文学研究者のおもだった論文を集めたものであり、彼女自身の最新の研究成果ではない。なおヴァン・ティン女史については後述する。

次にブックリスト作成の作業過程を時系列にそって述べる。筆者は児童文学の専門家ではないため、現地の専門家の協力が必要であった。2009 年 5 月からどのような専門家がいるかのリサーチを始め、ベトナム国立アカデミーの文学研究所に所属する知り合いから、彼の同僚のヴァン・ティン女史を紹介された。上述したように、女史はベトナム児童文学研究の草分け的存在で、大御所とも言える人物である。彼女の教えを請うべく何度かメールを送ったものの、理由は不明だが返事は来なかった。同 6 月、別のルートから「ベトナム児童文学研究センター」のラー・ティ・バック・リーさんを紹介され、メールを送ったところすぐに返信があり、ブックリスト作成の協力を快諾していただいた。

バック・リーさんには 7 月からリスト作成の作業を開始していただき、一か月ほどで

第一次案が完成した。これをたたき台として翻訳、修正、補足の作業を積み重ね、8 月には第二次案が出来上がった。それと並行して、キムドン出版社の社長ファム・クアン・ビン氏(Phạm Quang Binh)とも連絡をとり、ベトナムにおける児童書の出版状況について情報提供をお願いした(その情報は本報告書の I および文字と数の本のブックリスト作成にも反映されている)。

これらの作業をへて、筆者は 9 月初めに訪越した。その目的は、メールのやりとりだけでは解決しきれなかった問題をバック・リーさんと話し合うこと、連絡のとれなかったヴァン・ティン女史と会ってリスト作成のアドバイスをいただくこと、キムドン社を訪問して児童書出版の現場をリサーチすること、書店には児童書がどの程度置いてあるかを調べることにあった。しかし日程途中で筆者は交通事故にあい、帰国を余儀なくされることとなった。このためヴァン・ティン女史との会見やキムドン社の訪問は実現できなかったが、バック・リーさんとは会うことができ、未解決の問題を彼女に伝えるとともに、彼女の論文をはじめとする、代表的な研究者たちの著書を持ち帰ることができた。またハノイの書店で売られている昔話や文字と数の本にはどのようなものがあるかを自分の目で確かめ、昔話や文字と数の本を数点購入することができた(この点は後述する)。

帰国後、再びバック・リーさんとメールのやりとりを通じて第二次案の修正を重ね、11 月には最終案が完成した。その結果、国内賞受賞作(小説、詩などの創作)83 件、国外賞受賞作 2 件、(このうちの 1 件はリスト No.75 に記載してあるので、この両者の合計件数はマイナス 1 となる)、受賞はしていないが、ぜひ購入したい代表的な作品 118 件、昔話 40 件(ただしこの件数は、一冊に何編もの昔話が収録されている本の 1 タイトルを 1 件としたものではなく、昔話一編あたり 1 件とカウント。この点は III の 2)で述べる)、ベトナム語に翻訳された日本の作品 2 件、実録もの 19 件、研究書 11 件、数の本 6 件、文字の本 12 件、事典はゼロで、総計 292 件となっている。代表的作品のリストアップばかりでなく、作品の内容や出版元、出版年など、すべての情報が、バック・リーさんの協力があったはじめて得られたものであることを再確認しておきたい。

III. ブックリストに関する補足事項

1) 優先ランクについて

購入の優先ランクについては、A ランクのもののみ、リストのナンバー欄に記してある。A ランクのみとなった主な理由は、11 月に入ってバック・リーさんがにわかに体調を崩され、細かい作業の継続が困難になったためである(その状態は現在も続いている)。最近の彼女からのメールによれば、A マークの図書は重要度ももちろんあるが、入手の可能性がありそうなものということでもあるらしい。つまり、ベトナムの本は初版が 500 部程度と出版部数自体が少ないうえ、よほどの売れ筋でないと、いったん売りきってしまったら再版されることはほとんどない。また売れ残った本の在庫を管理し、注文に応じて書店に届けるといったシステムも確立されていないため、年代の古い本を探すのは困難をきわめる。

最近ネット書店が開設され、古本も以前よりは手に入りやすくなったが、それは出版年の比較的新しいものに限られている。A マークが記されたものは入手の可能性が比較的高いことを意味しており、それ以外の無印のものについてはランクにかかわらず、購入可能なら購入すればよいという位置づけのようである。

2) 昔話の本について

上述したように、リストアップした昔話の件数は、一冊に何編もの昔話が収録されている本の 1 タイトルを 1 件とカウントしたものではなく、昔話一編を 1 件とカウントしている。そこには以下のような事情がある。

昔話の本には、大きく言って、ある昔話一編を一冊の絵本として出版しているものと、何編もの昔話を一冊にまとめたものの二種類がある。前者は一部、ドンナイ出版社(NXB **Đông Nai** 所在地はホーチミン市)、文化情報出版社、教育出版社のものもあるが、ほとんどがキムドン社から出版されている。現段階でこれらの絵本を出している出版社がわかっているものだけは明記しておいた。不明のものについては、まずはキムドン社に問い合わせ、ない場合は他の出版社に問い合わせるのがよいだろう。後者については、筆者がハノイの書店でリサーチした限りでは、今回リストアップした昔話すべてを一冊に収めた本は見つけることができなかったが、それでもおおかたの昔話は収録されていた。どこの出版社から出されたものでも内容にさほど大きな違いはないが、I の 1)でも述べたように、出版社によっては誤植が多いなど、印刷の質にかかわる問題があるようだ。したがってこのタイプの昔話本を注文する際は、I の 1)であげた四つの出版社に”**Truyện cổ tích Việt Nam**”のタイトルで発注するとよいだろう。

3) 文字と数の本について

ハノイの書店には、文字と数の本が何種類も並べられていた。どれも 3、40 ページ程度のカラー印刷で、子どもが遊びながら学べるようにぬり絵形式になっているものもあった。ただし内容はどれも似通っていて、筆者自身はどの本がとくによいという印象は得られなかった。バック・リーさんも、その種の本はあまりにたくさん種類が出ていて、特定のものを推薦するのはむずかしいということであった。

そのため文字と数の本については、キムドン社社長のファム・クアン・ビン氏にお願いして計 18 件をリストアップしていただいた。

報告は以上である。なお以下は、ラー・ティ・バック・リーさんが所属するハノイ師範大学のホームページ URL である(英語のページもあり)。

ハノイ師範大学 HP

<http://www.hnue.edu.vn/portal/page/portal/dhsphn/ttc/88297/dvnckh/74308>